

*前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、自動車・自転車小売業、医薬品・化粧品小売業で大きく悪化傾向を強めたほか、繊維・衣服・身の回り品小売業、飲食料品小売業で悪化傾向を強めました。一方、家庭用機械・電気機械器具小売業、書籍・文房具小売業で大きく悪化傾向を弱めたほか、燃料小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業、その他小売業でも悪化傾向を弱めました。木材・建築材料小売業、スポーツ用品・娯楽用品・玩具小売業は横ばいとなりました。全体的には-60と前期に比べ3ポイント悪化傾向を弱め、小幅な改善となりました。売上額は3ポイント減少傾向を弱め、収益は6ポイント減少傾向を強めました。販売価格は5ポイント下降傾向を弱め、仕入価格は7ポイント上昇し、上昇傾向に転じました。在庫は6ポイント増加し過剰に転じました。資金繰りは2ポイント窮屈感が弱まりました。残業時間は1ポイントわずかながら減少傾向を強め、人手は5ポイント不足感が弱まりました。設備の状況は横ばいとなり、設備投資を実施した先は車両を中心に11%と、前期に比べ1ポイントわずかながら増加しました。

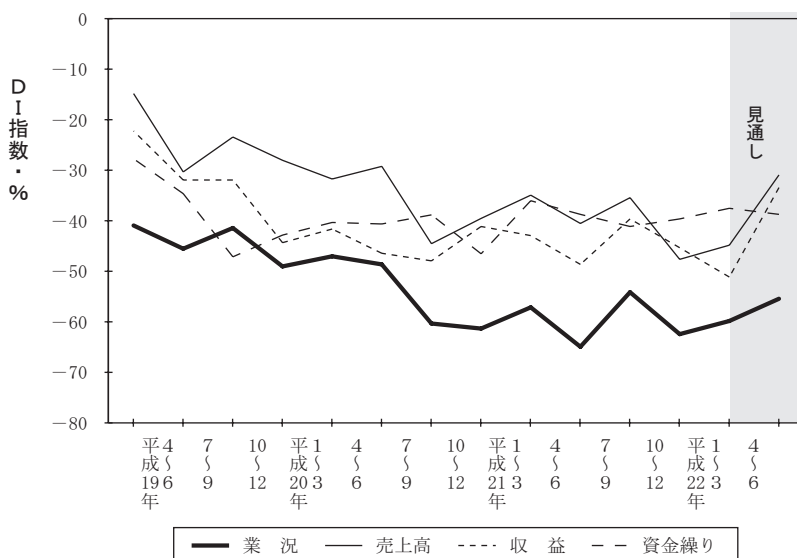
来期の見通し

業況は、自動車・自転車小売業、木材・建築材料小売業が大きく悪化傾向を弱めるほか、飲食料品小売業、写真機・時計・眼鏡・貴金属小売業、その他小売業でも悪化傾向を弱めとみています。スポーツ用品・娯楽用品・玩具小売業は今期に続き横ばいとなりそうです。一方、家庭用機械・電気機械器具小売業、燃料小売業が大きく悪化傾向を強めるとみているほか、医薬品・化粧品小売業、書籍・文具小売業で悪化傾向を強め、繊維・衣服・身の回り品小売業はわずかながら悪化傾向を強めるとみています。全体的には-56と4ポイント悪化傾向を弱めそうです。売上額は14ポイント、収益は17ポイント大きく減少傾向を弱めるとみています。価格面では、販売価格は9ポイント下降傾向を強め、仕入価格は6ポイント下降し、下降傾向に転じるとみています。在庫は5ポイント過剰傾向が強まりそうです。資金繰りはわずかながら1ポイント窮屈感が強まるとみています。残業時間は12ポイント減少傾向が弱まり、人手は6ポイント不足感が強まりそうです。設備の状況はわずかながら1ポイント不足感が弱まり、設備投資については、車両を中心に14%が実施予定とし、今期に比べて3ポイント増加するとみています。

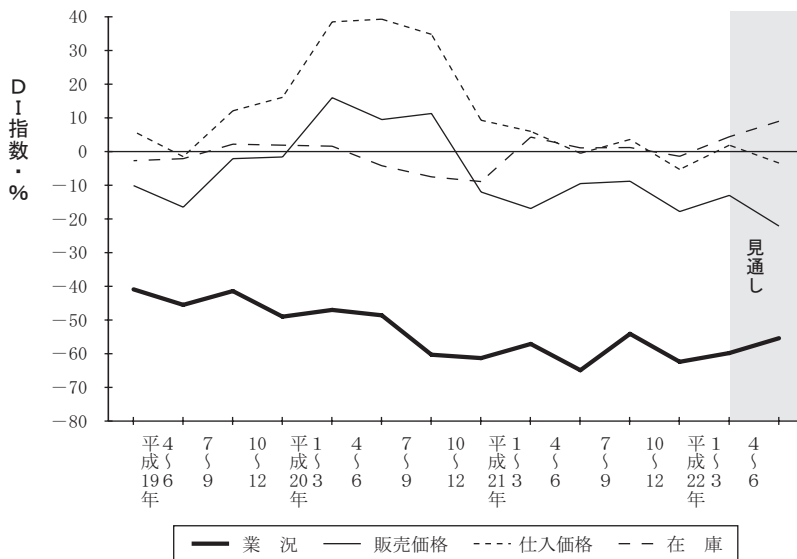
調査員のコメント

- 同業者間との競争が激化しており、更なるサービスの充実が必要とされる。技術的な面では官公庁の信頼があり一定の売上は望める。
(事務機器システム販売)
- 古くからの固定客多数有し、業況無難に推移しているが、業界的には厳しい状況にある。(印刷機材販売)

景況の推移

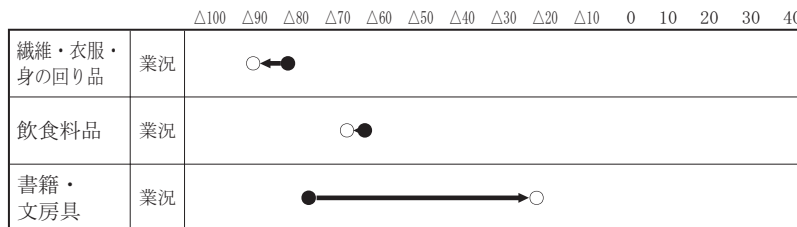


主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期 22年1月～3月) / 前期 21年10月～12月)



経営上の問題点	1位	売上の停滞・減少(1)	72%
	2位	同業者間の競争の激化(3)	37%
	3位	大型店との競争の激化(2)	32%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	69%
	2位	売れ筋商品を取り扱う	39%
	3位	品揃えを改善する(3)	34%

*()は前回順位